上海で商談会を開催

７月、中国上海市において、二つの商談会が行われました。７月８日、「全国地銀合同商談会」では、機械、金属、電子、プラスティックなど製造業向けの商談会が行われ、続いて、７月23・24日の二日間、食品関連の商談会「第２回日本食品展示商談会 in 上海」が開催されました。

この二つの商談会は、全国の地銀が合同で主催したもので、ふくおかフィナンシャルグループ(以下、「FFG」という。)３行(福岡銀行、熊本ファミリー銀行、親和銀行)は、双方に主催行として参加しました。

盛会のうちに終了した両商談会の模様をレポートします。

１．機械製造業向け商談会

７月８日に開催された「全国地銀合同商談会」は、FFG３行のほか、伊予、大垣共立、京都、七十七、常陽、中国、ほくほくフィナンシャルグループ(北陸、北海道)、横浜の全12行が共同主催者となり、取引先合計135社が出展しました。

本商談会は、板金、プレス、金型など日本国内の工業メーカーに、中国における部品調達先、加工委託先を紹介する目的で行われ、昨年に引き続き二回目の試みです。

当日は中国側から約1,100社、延べ1,700人が来場。来場者が日本側企業の展示した商品見本を製造できるかどうかを検討する「逆見本市」の形式で、およそ2,700件の商談が行われました。FFGが行ったアンケートでは、３行取引先の出展企業の66%から「満足」したとの感想が寄せられ、それぞれ、今後成約に結びつきそうな商談成果が上がっていました。また、約半数の企業から次回開催時にも出展したいとの希望がありました。

ただし、従来は対日輸出をベースとしていた現地日系企業の事業も、中国政府主導による外資優遇政策の見直しや人民元の切り上げ、人件費の上昇など、ここ一年間の環境変化により、従来の対日輸出から中国国内での販売にシフトする動きが見られます。今後は、販売先を開拓する商談会のニーズがより高まってくると思われます。

２．食品商談会

続いて、７月23・24日両日に行われた「第２回日本食品展示商談会 in 上海」は、FFG３行、鹿児島、千葉、八十二、広島、北洋、みなとの９行が主催し、日本側からの出展企業153社、主催者が招待した中国大手食品メーカー、

百貨店、商社、有名食品バイヤー合計約800社をはじめ、約2,300名が来場しました。銀行主催による上海での食品商談会としては過去最大規模のものとなりました。

高い経済成長率を誇る中国では、国民の生活水準の向上に伴い「食品の安全性」や「健康」に対する関心が高まってきています。特に、総人口13億人のおよそ１割と言われる富裕層の間では、安心、安全、ヘルシーな日本食品の需要が増えており、多くの日本企業が中国への輸出や販路拡大を検討しています。

今回の商談会では、コーヒー、お茶、ミネラルウォーター、日本酒、焼酎、清涼飲料水などの「飲料系」から、味噌、醤油、酢、塩、食用油などの「調味料系」、冷凍食品、そうめん、そば、漬物、玉子焼き、蒲鉾、ソーセージ、アイスクリーム、蜂蜜、ケーキ、菓子、チーズなどの「食品系」、漢方薬、サプリメントなど、実に様々な商品が並べられ、九州各県の企業も自慢の一品を持って多数参加していました。

また、食品メーカーのほかにも、物流、ＩＴ、各種コンサルタント、人材、リースなど、食品製造業を支援するソリューション企業も10数社参加しており、商談成立後のサポート体制にも充実した工夫が凝らされていました。

こちらもＦＦＧが３行取引先企業に行ったアンケートでは、69%の企業が「満足」と答え、72%が次回も参加したいと回答しています。

また、商談会翌日の７月25日には、食品商談会に出展したＦＦＧ取引先を対象に、上海市内スーパー・百貨店２店舗の視察会と個別商談会

を開催しました。参加企業は店内の商品構成や価格帯、売れ筋商品などを熱心に確認されていました。また、２店舗とも日本食品の品揃えを拡大していることもあり活発な商談が行われ、参加企業からは「今後に繋がる有益な商談ができました」という感想が多く聞かれました。

３．両商談会を終えて

上海市は福岡空港から直行便が毎日４往復しており、片道約１時間20分ですので、時間的には東京より近いといえます。

総人口は1,858万人（2007年末）、07年のＧＤＰ（実績）は12,189億人民元（約18.3兆円）と急成長しており、特に、近年の都市開発の勢いにはすさまじいものがあります。数多くの文化施設が建設され、コンサートなどのイベントも盛んです。また、古くから国際都市として海外文化の影響を色濃く受けており、中国で最も西洋的な街としても知られています。私たち九州人にとって「一度は行ってみる価値のある街」といえるでしょう。

今回の商談会を初め、現地における日系企業によるビジネス交流は非常に盛んで、今、上海は日本国中から熱い視線を集めています。私たち九州の企業は、「地の利」を活かした情報収集、営業活動が可能であり、他地域に無いアドバンテージを持っているといえるのではないでしょうか。

ＦＦＧは、九州の企業と上海の交流を深め広げていくお手伝いに、今後とも注力して参りたいと考えています。　（前島 顕吾）